

テンブル騎士団がコロンブス以前にアメリカ大陸に来ていたという番組を見た
(「[あれこれ備忘録@はてなブログ](#)」)

1492年、クリストファー・コロンブスがアメリカ大陸を発見したというのは歴史の授業でも習う有名な事柄だ。しかし、**それ以前にヨーロッパ人はアメリカ大陸に渡っていたことが明らかになっている。**

その最初はバイキングだったと言われている(AC1000年頃)。

後の探検家はその時の地図や知識を利用していたというのである。

騎士によって作られたテンブル騎士団(修道会)は迫害を受け、一部がヴァイキングの知識を使ってアメリカに逃れたという説もある。

[Kensington Runestone - Wikipedia](#)

1898年の秋、ミネソタ州のケンジントンで、スウェーデン人移民のオロフ・オーマンが敷地のポプラの木を取り除こうとしていた。

木を倒すと、根が絡んだ石が出てきた。その石には何かが彫られていた。

良くわからなかったが、オーマンはスウェーデン人だったため、それが古スウェーデン語のルーン文字に似ていることに気がついた。

その石の噂は広まり、さらにオーマンが専門家に文字の解読を依頼したこともあり、注目された。

オーマンが有名になるためのでっち上げだという人もいる。

しかし、近所の数人がなぎ倒された木とその根に絡んだ石を見ているという。

オーマンの家にルーン文字の本が有ったことはわかっているのだから、それを使って自分で石に文字を刻んだのではないかと懐疑派は言う。

オーマンの子孫は、それらの本はオーマンが石が発見されたあとにその文字を調べるために手に入れたものだと主張している。

またスウェーデン人だとしても、刻まれている文章は素人ではとても作ることはできないともいう。

中世スカンジナビアにはその地方のルーン文字(方言のようなものか?)で刻まれた石碑はいくつもありませんが、アメリカにそれがあるというのは普通では考えられない。

ミネソタの石(のちにケンジントン・ルーン・ストーンと呼ばれる)に刻まれた文字は書き写され、世界中のルーン文字学者やスカンジナビア語専門の言語学者に送られた。

ルーン文字はローマ字のような表音文字でもエジプトのヒエログリフのような象形文字とも異なり、解読するのはとても難しいと言われている。

ミネソタ大学のオラウス・ブレードは初めて大まかな翻訳に成功した。

それによると、

「**ヴァンランド**の西から発見の旅に出たスウェーデン人とノルウェー人が野営を張った。この石から北に一日のところで終日釣りをした。帰ってくると、仲間達が血まみれで息絶えていたのを発見した。悪から守り給え。海にいた仲間達に船を見張らせる。島から???日の旅。????年」

というようなものだった。

この翻訳では日付はわからなかったが、その後、イリノイ州ノースウェスタン大学のゲルマン語教授ジョージ・カームが新たな翻訳を発表する。

旅に出たものの内訳は「スウェーデン出身のゴート人8人とノルウェー人22人」だという。そして「島から14日の旅。**1362年**」だと判明した。**コロンブスがアメリカを発見した1492年より130年も前の話**だということ

になる。

ルーン文字の専門家たちによって翻訳は若干修正された。

その時、偽のルーン文字や1362年には新しいルーン文字が使われていたことが分かったとされた。信憑性は大いに損なわれた。

しかし、言語学とは違ったアプローチもあった。

地質学者のニュートン・ウィンチェルが1910年に行った研究だ。

ウィンチェルは鉱物からサンプルを抽出し、成分を特定して風化具合から年代を推定したのである。

彼は石は本物であると結論づけた。

だが、大半の学者達は納得しなかった。

仲間が何者かに襲われて死んでいたのに、襲ったものがまた戻ってくるかも知れなかったのにそこにとどまり石に悠長に文字を刻み込んでいたなどということがあったのだろうか？というのである。

1893年、アメリカ大陸発見400周年を記念したシカゴ万博が開かれた。

スカンジナビア半島出身の移民たちの多くはヴァイキングこそがアメリカ大陸を発見したと信じていた。

北欧系アメリカ人にとっては万博は屈辱的に写ったようだ。

ヴァイキングの船を模した船をわざわざ作らせて万博会場近く海に浮かべたものもいたという。

石が見つかったのはそんなころのことでちょっとタイミングが良すぎるというのも懐疑的な見方をされる原因となっている。

1960年には晴れてコロンブスよりも前にアメリカ大陸にヴァイキングが上陸していたことが認められた。

[ランス・オ・メドー - Wikipedia](#)

[ランス・オ・メドー国定史跡](#) | [カナダ文化遺産](#) | [世界遺産オンラインガイド](#)

ニューファンドランド島ランス・オ・メドーで**ヴァイキングが住んでいたとされる住居**が見つかるのである。

紀元1000年の遺跡である。その**ニューファンドランドこそが、ヴァインランド**ではないかと言われている。

ケンジントン・ルーン・ストーンはその後、2500ドルで実業家に買い取られた。

現在ではケンジントンの近くにあるアレクサンドリアのルーン・ストーン博物館に保管されている。

石は偽物であるということでほぼ結論付けられ、忘れ去られるかと思われていたが、そうはならなかった。

2000年、地質学者のスコット・ウォルターに博物館から石を分析するよう依頼があった。

ウォルターは文字が新しく見えることに気づいた。

ただ、文字の溝の底の部分は新しいのに側面は風化しているのが不自然だった。

実は発見者のオーマンが釘など尖ったもので文字をなぞって傷つけていたのである。

土を取り除き、見やすくしようとしたのだろう。

これで文字が新しいかどうかで真贋を見極めることはできなくなった。

ウォルターは発見時に巻き付いていたという木の根の跡にも注目した。

土壌の専門家の助言により、木の根によって石が酸性化し、跡がついたことがわかった。

石が1300年代のものである証拠を求めて、アメリカ入植者の墓地の墓石が調べられた。

墓石の風化具合を調べることで、ケンジントン・ルーン・ストーンがいつから風化を始めたのか推測することができるという。

1806年に建てられた墓石からサンプルをとって調べると墓石とルーンストーンに含まれる黒雲母が石の表面に出てくると**200年後から風化が始まる**ことがわかったのである。

ケンジントン・ルーン・ストーン表面の黒雲母はすでに無くなっており、そこから考えるとオーマンが石を見つけた1893年のさらに200年以上前には始まっていたことになるのだ。

オーマンに捏造は無理だということが証明された。

直近で考えると 1600 年代もありうるが、そのころはアメリカ先住民とフランス人商人くらいしかその地域にはいなかったと思われ、彼らがルーン文字の知識を持っていたとは考えにくい。

とすると**石に刻まれた 1392 年を信じるしか無い。**

ウォルターは結果をアメリカ国内の考古学会で報告した。

参加者はウォルターの地質学的見地からの結論については同意したがルーンストーンに書かれた文字の信憑性については取り合わなかった。

ウォルターはルーンスターンの信憑性を確かめるためのさらなる調査を決意する。